

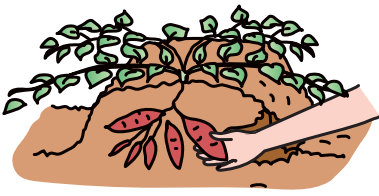


初夏から盛夏にかけて盛んにつるを伸ばしてきたサツマイモは、やがて収穫の時期を迎えます。芋の肥大経過をたどってみると、通常8～9月には半数以上が50g以上にもなり、その後急生長し10月中旬～11月に入ると肥大は緩やかになりますが、霜が降りるころまで少しずつ太り続けます。

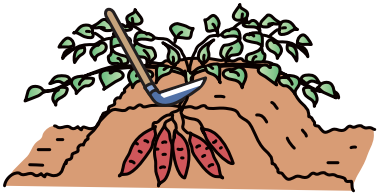
自家菜園では、必要に応じて株元に手を差し込み適当に肥^{ふと}つた芋だけを収穫する探り掘り(図1)、あるいは株全部を掘り取る早掘りをして、秋の味覚を楽しむようにしましょう。

本格的な収穫の適期は、10月下旬

(図1) 〔探り掘り〕

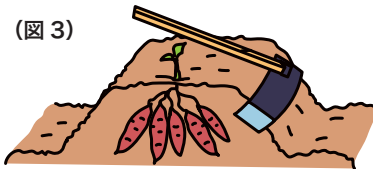


(図2) 〔本収穫〕



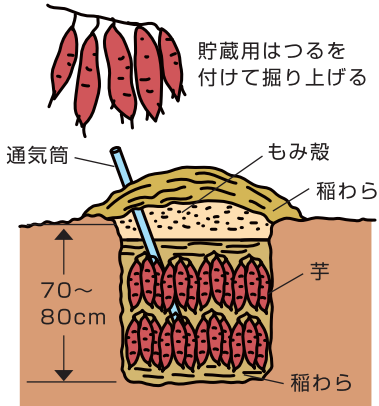
つるを刈り取る

(図3)



くわを大きく打ち込んで芋を掘り上げる

(図4) 〔貯蔵〕



貯蔵用はつるを付けて掘り上げる

旬は11月で、肌寒さを感じ、初霜も近くなった頃です。初霜が降りると若い葉が枯れるので、すぐ分かります。何回か降霜に遭い、多くの葉が黒く枯れ上がったら待たず、急いで全部掘り上げてください。収穫日はできるだけ畑が乾いていた方が芋のためにも作業のしやすいのためにも好都合です。

収穫の手順は、まずつるの株元部分を刈り出し、地際のつるを地上4～5cm残し、鎌で刈り取ります(図2)。刈り取ったつるを畑の外へ運び出し、畝を丸裸にし、マルチフィルムを剥がしてから、芋を傷つけないよう注意して株元に大きくくわを打ち込み、芋全部を掘り出します(図3)。

その際注意すべきことは、つるは強大で大きく絡み合っているため、畑の中で50～60cmほどの長さに鎌で切り分けて、畑から運び出しやすくしておくことです。また、掘り取る際に、貯蔵予定の芋は、つ

るから外さないよう注意して扱い、容器に入れて丁寧に持ち運ぶようにしましょう。

刈り取った大量のつるは、畑の隅などに堆積して乾かしておきます。このつるは堆肥材料としてもよく、特に来春のトマトなど果菜類の元肥溝に、粗大堆肥材料として施すと、大きな役割を果たしてくれます。

貯蔵方法は、水はけの良い場所を選び深さ70～80cmの穴を掘り、底の部分に稲わらを敷き、つるの付いたままの芋を傷つけないよう丁寧に重ね入れます(図4)。収穫終わったら上にも稲わら、もみ殻を覆います。貯蔵の適温は13℃、湿度は90%が目安です。

少量の貯蔵なら、芋を新聞紙にくるんで、保湿性の高い発泡スチロールの箱に入れ、室内の冷暗所に置くだけで十分です。

肥料・農薬のご紹介
「平成29年度産米肥料・農薬」の申込みはお済みですか？



8月末以降、「平成29年度栽培ごよみ」を水稻作付者の方々に配付いたしました。

栽培ごよみには土づくり資材をはじめ、多くの肥料・農薬や穂肥施用時期、収穫適期の目安なども掲載されています。稲作の際などにぜひともご活用ください！

当JAでは、今後も安価な価格で肥料・農薬をご提供いたします。

※お気軽に各営農センター(営農購買課)へお問い合わせください。